

学習久しぶりの制服姿でしたが

ジャージ姿に見慣れているせい、昨日の実カテストのため、の制服登校には新鮮さを感じました。衣替え期間中ということ、で冬服と夏服が混在していましたが、どちらも大人への過渡期を連想させる中学生ならではの初々しさが印象的でした。

そんな中で、興醒め（きょうざめ）↓感動が一気に消えてしま（うこと）だったのが、一部の男子生徒がカッターシャツをズボンから出して平気で登校する姿でした。朝から汗を拭わなければならぬほどの同情すべき暑さではありません。その生徒たちは、周りの視線に気づくことなく歩いていました。

私も声をかけました。恐らく、学校に近づくにつれて、より多くの声が生徒にかけられるだろうと予想できました。案の定、健康チェックの場が、一時（いつとき）服装チェックの場となったようでした。

私は過去のことを思い出しました。同じようにカッターシャツを出して登校し、再三指導を受けた野球部の生徒を呼んで、次のように話したことがあります。

「次の試合に君をスタメンで使うから、一打席目に上のユニフォームを中に入れて、バッターボックスに入りなさい。」

「そんなことしたら、審判に注意されます。」

「だったら、主審にこう言いなさい。『僕は（シャツを）出したほうが涼しいし、出しているもプレーには影響しないから大丈夫です』と。」

「……。」

「そこなんだよ。レギュラーになり切れない君の弱さはそこなんだよ。『注意されるからそうする』程度の意識で野球に取り組んでいるから、それがプレーにも影響しているのではないかな。高校野球にしてもプロ野球にしても、選手たちは自分の立場や頑張りに『誇り』を持って取り組んでいるよ。その『誇り』の象徴がユニフォームなんだよ。彼らは移動時にどんな格好をしているのか知っている？そこにも『誇り』はあるんだよ。学校の制服もユニフォーム、勝手気ままな着こなしは許されないよ。」

中学生の「子どもの部分」ですね。厳しい目が注がれている状況では、自分に不利にならないようにルールを守っているふりをします。しかし、スポーツの意義やルールの本質を分かっているのではないので、スポーツを離れると応用が利きません。したがって、結果として勝手気ままな行動が出てしまうのです。

その生徒たちも、いつかは職業に就き、職場のユニフォームを与えられます。そして、それをバチツと着こなして、組織の一員として活躍することでしょう。その光景を見ることはないでしょうが、私たちはそうなることを信じて今指導しています。